

認知症安心ガイドブック改訂案についてのご意見と修正点等

項	ご意見	修正点等
P. 1	「中核症状」の説明について、内容を変更した方がよい。 (「必ず現れる」という表現を変更)	適当な表現に修正しました。
P. 3	「軽度認知障がい (MCI) から引き返そう」の「引き返そう」という表現を変えた方がよい。 「早期に受診しましょう」や「気付きましょう」など	「認知症の一步手前 軽度認知障がい (MCI) から引き返そう」の一文をカットし、「遅くとも、軽度認知障がい (MCI) の間に診断を受けましょう！」を「できるだけ早く 軽度認知障がい (MCI) の段階で診断を受けましょう！」に変更しました。
P. 3	「遅くとも、軽度認知障がい (MCI) の間に診断を受けましょう！」の「遅くとも」という表現を「できるだけ早く」という文言にした方がよい。	
P. 4	「本人が嫌がる場合は」という表現は、例えば「ご本人が相談に消極的な場合は」などにするか、その部分をカットしてしまってもいいと思う。	「本人が嫌がる場合は」という部分をカットし、適当な表現に修正しました。
P. 5	認知症のセルフチェックについては、取り入れることは良いが、使い勝手やエビデンスなどを勘案しどれを取り入れるか検討してほしい。	早期発見のために、初期の段階で簡単にチェックができ、予防に取り組んでもらったり、相談や受診の目安としてもらうためのチェック表という点から、相模原市等が採用しているチェック表(大友式認知症予測テスト)を取り入れます。
P. 6 (修正前 P. 5)	若年性認知症コールセンターよりも新潟市内の相談機関である若年性認知症支援コーディネーターの部分強調した方がよい。	ご意見のとおり修正しました。
P. 6 (修正前 P. 5)	現在のガイドブックに記載されている新潟県のホームページにある「若年性認知症の人と家族の支援ガイドブック」の紹介を入れてほしい。	ご意見のとおり県のガイドブックについて記載しました。
P. 6 (修正前 P. 5)	「恐怖や悲しみ」という表現を、「不安」などもう少し柔らかい表現に。	「恐怖や悲しみ」でなく、「不安や悩み」に修正しました。
P. 9 (修正前 P. 7)	重度の段階の本人・家族向けアドバイスの部分、「背中をさすったり、手を握ったりすると安心できます」について、人によっては不快に思われる方もいるかもしれないので、表現を工夫した方がよい。	限定的な表現にならないよう修正しました。
P. 8.9 (修正前 P. 6, 7)	本人・家族向けアドバイスの部分、「本人」という表現について、ほかの表現がないか検討してほしい。	「本人」に代わる適当な表現がなく、また「本人ミーティング、本人ガイド、本人座談会」など本人という表現は国においても多く使われていることから、表現を変えないこととします。

P. 10 (修正前 P. 8)	「高齢者運転免許証返納サポート事業」については、軽度のときだけに関係するものではないので、長さを伸ばした方がよい。	ご意見のとおり修正しました。
P. 10, 11 (修正前 P. 8, 9)	「介護老人保健施設」と「特別養護老人ホーム」は段を別々に記載し、それぞれ長さを修正した方がよい。	ご意見のとおり修正しました。
P. 18 (修正前 P. 16)	認知症の予防について 目、耳、歯の機能について入れたらどうか。 ただ運動するだけでなく、頭を使いながら体を動かす方が有効など、認知症予防出前講座で伝えているようなことを記載したらどうか。 規則正しい生活や十分な睡眠も予防にとっては大事なことではないか。	体を動かしながら同時に頭を使うこと、お口の健康のこと、よい睡眠をとることなど、追加で記載しました。
P. 21 (修正前 P. 19)	免許返納についての相談先や免許更新の際の認知機能検査、警察署の免許返納についての情報などを入れるかどうか検討してほしい。	運転免許証の自主返納の制度や運転を続けることに不安がある方やそのご家族の相談窓口「運転適性相談窓口」の紹介を記載しました。
その他	「徘徊」という言葉について、この表現でいくか、別の表現を使うか検討してほしい。	「徘徊」という言葉の言い換えについては、いくつかの表現がありますが、まだ一般化されておらず、わかりやすさの点から今回はそのままの表現とします。

【配布場所と活用方法について】

○配布場所

- ・引き続き、区役所、出張所、地域保健福祉センター、地域包括支援センター、認知症疾患医療センター等で配布。
- ・医療機関や薬局等へ配布を促す。

○活用方法

- ・キャラバンメイトへ周知を図り、認知症サポーター養成講座での活用を呼び掛ける。